

笑顔で駆け抜けた 勇者たちへ。

8月24日から9月5日まで東京2020パラリンピックが開催されました。市では山陽オートレース場をパラサイクリング日本ナショナルチームの練習場として提供し、市を挙げてパラサイクリングを応援しています。今大会は、金メダル2冠や世界記録・自己記録の更新といった記録づくめの大会となりました。全力を出し尽くした選手たちの走りは、私たちの心を熱くしてくれました。戦いを終え、本市に凱旋した選手たちの勇姿を今一度ご覧ください！

ロード競技で2冠の女王誕生！

すぎうら けいこ

杉浦 佳子選手

金メダルおめでとう！

杉浦選手は、自転車女子ロード競技の個人タイムトライアルとロードレース(C1～C3)で日本自転車競技史上初の金メダル2冠を達成！タイムトライアルは、一人ずつがコースを走りタイムを競う孤独な戦いで、自身に打ち勝つ強靱なメンタルが必要です。緊張を集中力に変えるため、試合前は分刻みのスケジュールを組みメンタルの管理を行ったそうです。徹底した準備により、平均時速37.024kmと、杉浦選手のみ時速37km台を叩き出す快走を見せてくれました。また、ロードレースでは、残り3kmで先頭集団から抜け出し、得意としている上り坂で加速。2位に16秒差をつけゴール。厳しい練習に耐えたからこそ得ることができた結果であり、監督をはじめ、コーチ、メカニックなどチームの支えが2冠に繋がっています。

杉浦選手は平成31年(2019年)には山陽オートレース場でキャンプを行い、市内の小学校や高校で児童・生徒と交流を行うなど、本市と繋がりの深い選手です。今回の凱旋では、金メダルを胸に市民や子どもたちに勇気と希望、そして笑顔を与えてくれました。

Profile・昭和45年(1970年)に静岡県で生まれ、平成28年(2016年)に自転車レース中の落車事故で高次脳機能障害を負う。平成29年(2017年)世界選手権ロード・タイムトライアル優勝、平成30年(2018年)世界選手権ロードレース優勝。



ゴールで金メダル獲得を確信してのガッツポーズ(ロード競技)

(写真提供：一般社団法人日本パラサイクリング連盟)